

E-38	
Youth suicide: The role of school consultation	
Peck M L, Berkovitz J H	
英語	
Adolescent Psychiatry, 14, 511-521	
Report	
学校	
学校における自殺予防を実施するうえでの専門家の役割について、事例を提示しながら概観する。	
青年における自殺行動は不名誉や混乱、困惑を導く。学校において自殺が起きた場合、補償作用の喪失がしばしば起こる。青年の自殺予防の専門家が最も有効な助けとなるであろう。自殺問題を抱える生徒を持つ教員のみでなく、学校全職員の助けとなるべきである。こうした相談により、更なる自殺を減らすことができるであろう。	

E-41	
A national survey of school-based, adolescent suicide prevention programs	
Garland A, Shaffer D, Whittle B	
Division of child psychiatry of the college of physicians and surgeons of Columbia university	
英語	
Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry, 28(6), 931-4	
Cross sectional study	
研究デザイン	
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	115プログラム
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校
目的	国内の学校における自殺予防プログラムの実施状況に関して、調査を実施し、現状を知る。
結果・内容・提言	115のプログラムが確認され、1984年度から1986年度の間の実施率は約4倍となっていた。プログラムの内容は類似しており、自殺のサイン、自殺のリスク要因、地域資源へのアクセスなどが含まれていた。学校職員や両親に対する内容も多く、プログラムに含まれていた95%が、自殺は過度のストレスやプレッシャーから生じるもので、誰の身にも起こりうるとしていた。
キーワード	Suicide, prevention, adolescents

管理番号	E-44
タイトル(英語)	The campus cares: A Suicide Prevention Project
タイトル(日本語)	
研究者	Funderburk J R, Archer J
所属機関	Psychological and vocational counseling center, university of Florida
言語	英語
雑誌情報	Journal of College Student Development, 30(3), 277-279
論文種類	
研究デザイン	Report
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(大学)
目的	フロリダ大学における自殺予防対策を紹介する。
結果・内容・発言	フロリダ大学における自殺予防対策の目標は、気づきとケアによる予防である。学生に小冊子を配布、教員やスタッフへの案内、ポスターの掲示、積極的に宣伝を行っている。教員、スタッフ、学生は提供されたプログラムによって助けられ、学生の問題に直面しても立ち向かえると感じている。
キーワード	

E-43	
Suicidal Asian patients: recommendations for treatment	
Takahashi Y	
Yamanashi medical College	
英語	
Suicide and Life-Threatening Behavior, 19(3), 305-13	
Comment	
アジア	
医療	
アメリカ人セラピストが自殺念慮のあるアジア系患者と接する際、患者は退行し、文化的特徴を示すであろう。セラピストは、文化差の重要性に気づくべきである。自殺念慮のあるアジア系患者の治療について議論する。	
症状の表現も異なるれば、援助の求め方も異なるため、双方に誤解を招く恐れがある。文化差を理解し、より具体的で直接的なアドバイスを与え、家族もセラピストに加えると良いだろう。また、セラピストは患者の言語や文化に詳しい者に援助を求めるとよいであろう。	

管理番号	E-45
タイトル(英語)	The components of school-based suicide prevention
タイトル(日本語)	
研究者	Garfinkel B D
所属機関	University of Minnesota hospital and clinic
言語	英語
書誌情報	Residential Treatment for Children & Youth, 7(1), 97-116
論文種類	
研究デザイン	Comment
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	学校(中学・高校)
対象領域	学校における自殺予防プログラムの構成要素について概観する。
目的	中学や高校における自殺予防プログラムの発展には、ハイリスク者の早期発見、総合的な評価、危機介入、ホストベンション、教育、モニタリング、地域との連携、研究が必要である。
結果・内容・語言	
キーワード	

管理番号	E-46
タイトル(英語)	The Fairfax County Suicide Prevention Program: A public school system responds
タイトル(日本語)	
研究者	Herbert M
所属機関	School social services, Fairfax county public school
言語	英語
書誌情報	Residential Treatment for Children & Youth, 7(1), 89-96
論文種類	
研究デザイン	Intervention study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ(ヴァージニア)
対象領域	学校
目的	フェアファックスにおける自殺予防対策の確立とその効果について述べる。
結果・内容・語言	フェアファックスでは、1980年度には11名の青年が自殺し、これを受けて1982年度に、学校と地域における自殺予防対策を立てることとなった。高校の教員、生徒、両親に対する気づきのプログラムから着手し、ソーシャルワーカー、心理学者などを訓練者として養成し、各学校における教員訓練を実施した。プログラムの実施初年度には自殺が5名に減少し、1987年まで5を上回ることはなかった。
キーワード	

管理番号	E-48
タイトル(英語)	Campus suicide prevention: Issues for the counseling center director
タイトル(日本語)	
研究者	Trimble R W
所属機関	University of Illinois at Urbana-Champaign counseling center
言語	英語
書籍情報	Journal of College Student Psychotherapy, 4(3-4), 165-178
論文種類	Chapter
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	地域
目的	自殺予防プログラムにおけるカウンセリングセンターの役割を議論する。
結果・内容・提言	カウンセラーの雇用、スタッフの研究機会の提供、大学や地域とのネットワーク構築、データの作成、政策や手続上の変更、メディアの利用、説明義務の提供など幅広い活動を行うべきである。
キーワード	

管理番号	E-47
タイトル(英語)	Adolescent suicide attempters. Response to suicide-prevention programs
研究者	Shaffer D, Vlieland V, Garland A, Rojas M, Underwood M, Busner C
所属機関	Department of child psychiatry, Columbia university college of physicians & surgeons
言語	英語
書籍情報	JAMA, 264(24), 3151-5
論文種類	Original contributions
研究デザイン	Intervention study
統計手段	フィッシャーの確率検定
対象観察期間	
対象サンプル数	973名
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	学校における自殺予防プログラムの効果を検討する。
結果・内容・提言	7つの高校がこの研究に参加し、2校が自殺予防プログラムを、2校は他のプログラムを、3校は転校生とした。6～10時間の訓練を受けた教師が通常の授業内で学生に対して実施した。内容は、10代の自殺への問題意識の向上、自殺前の臨床的特徴に関する知識の増加、適切なサポート資源へのリファールに直す行動的・情報的アドバイス、適切な助けを求めることの推奨に関するものであった。63名に自殺企図歴があり、企図歴のない者910名を抽出し、援助希求と自殺への態度の真化の比較を行った。介入群の自殺企図者は、介入前にはプログラムに賛同しない傾向があったが、介入後には改善が見られた。
キーワード	

E-50	
Conclusions and recommendations: College student suicide	
Whitaker L. C. Sliimak R E	
英語	
Journal of College Student Psychotherapy, 4(3-4), 211-217	
Chapter	
Comment	
学校	
学校における自殺予防プログラムのポイントを提示する。	
	<p>穏やかな学校環境、自殺予防の基礎知識の提供や教育、構内におけるメンタルヘルスサーベイス、アルコールや薬物使用に対する制限、危険な構内環境の撤去が学校における自殺予防プログラムのポイントである。</p>

管理番号	E-53
タイトル(英語)	Student recognition of and response to suicidal peers.
タイトル(日本語)	
研究者	Lawrence M T, Ureda J R
所属機関	East Carolina university
言語	英語
雑誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 20(2), 164-76
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	回帰分析
対象観察期間	
対象サンプル数	1311名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ(サウスカロライナ)
対象領域	学校(大学)
目的	大学生における友人の自殺行動の認識に関する調査から、青年の自殺予防プログラムについて考える。
結果・内容・提言	<p>大学新入生1311名を対象に、友人の自殺行動の認識に関する調査を実施した結果、助けとなるような対応をすることはできないとの回答が多かった。自己効力感、情緒的安寧、助けとなるような対応に関する知識、自殺行動に関する知識が、友人に対して直接自殺をするつもりか?と尋ねるといふ行為と関連していた。モテリングやスキルトレーニング、ロールプレイなどを実施し、自己効力感や情緒的安寧を増加させることが青年の自殺予防プログラムには必要である。</p>
キーワード	

管理番号	E-55
タイトル(英語)	Suicide prevention at a United States Navy training command.
タイトル(日本語)	
研究者	McDaniel W W, Rock M, Grigg J R
所属機関	
言語	英語
書誌情報	Military Medicine, 155(4), 173-175
論文種類	
研究デザイン	Intervention study
統計手段	
対象観察期間	1987-1988
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	職域
目的	アメリカ海軍訓練兵の自殺未遂に対する自殺予防プログラムの効果を検討。
結果・内容・趣旨	訓練兵の指導者に対する自殺予防プログラムを実施。訓練兵のリスクの把握や援助の仕方について教育を行った結果、自殺類似行為の減少が見られた。
キーワード	

E-54	
Suicide mortality among Kentucky farmers, 1979-1985.	
Stallones L	
Colorado State University	
英語	
Suicide and Life-Threatening Behavior, 20(2), 156-63	
retrospective cohort study	
Z検定	
1979-1985	
アメリカ(ケンタッキー)	
職域	
ケンタッキー州の白人男性と、白人の農業従事者、およびアメリカの白人男性の自殺率を比較する。	
ケンタッキー州の白人の農業従事者、ケンタッキー州の白人男性、アメリカの白人男性の順に自殺率が高かった。いずれも小火器によるものが最多であった。	
キーワード	

管理番号	E-60
タイトル(英語)	Psychological effects of a suicide prevention unit on adolescents' levels of stress, anxiety and hopelessness: Implications for counselling psychologists.
タイトル(日本語)	
研究者	Silbert K L, Berry G L
所属機関	Graduate school of education, university of California
言語	英語
書籍情報	Counseling Psychology Quarterly, 4(1), 45-48
論文種類	Research report
研究デザイン	Intervention study
統計手段	分散分析
対象観察期間	
対象サンプル数	326名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	高校における自殺予防プログラムが学生のストレス、不安、希望のなさに及ぼす影響を検討する。
結果・内容・提言	通常授業において50分を2回実施。10代の自殺の理解と抑うつ気分への対処の学習、自殺サインと援助希求に関する内容であった。二つの有無(サポート)が低い、ストレスや不安、希望のなさが高い)および介入の有無により群に分類した。介入群は2群とも知識が増加、二つのある介入群ではストレスと希望のなさが低減した。
キーワード	

E-58	
Community-based suicide prevention programs in rural Alaska: self determination as a new approach.	
Berger C J, Tobeluk H A	
Department of corrections, Seward, Alaska	
英語	
Arctic medical research, Suppl, 291-3	
Report	
アメリカ(アラスカ)	
地域	
アラスカの地域における自殺予防プログラムについて概観する。	
若者と老人の交流、文化的プロジェクト、ボランティアによる支援活動、カウンセリング、危機介入チーム、教育や予防、更生などのプログラムがあり、ほとんどの地域社会がこれらのうちの一つもしくは複数を持っていて、地域における自殺予防プログラムは自殺や自己破壊的行動の減少のための介入として革新的なアプローチである。感染症や慢性疾患とは異なるケアシステムが必要である。行政と地域が協働することが必要である。	
キーワード	

E-61	
Suicide prevention in the Pacific War (WW II).	
Suzuki P T	
University of Nebraska	
英語	
Suicide and Life-Threatening Behavior, 21(3), 291-8	
Report	
日本	
地域	
	第二次世界大戦中に、アメリカが日本人に対して行った自殺予防対策の紹介。
	第二次世界大戦中の日本人の自殺に対して、外国のモラル分析と戦争終了間際の沖縄やサイパンでの戦線での直接介入を通して、アメリカが自殺予防対策を行っている。

管理番号	E-62
タイトル(英語)	The impact of curriculum-based suicide prevention programs for teenagers.
タイトル(日本語)	
研究者	Shaffer D, Garland A, Vieland V, Underwood M, Busner C
所属機関	Department of child psychiatry, Columbia university college of physicians and surgeons
言語	英語
書誌情報	Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry, 30(4), 588-96
論文種類	
研究デザイン	Intervention study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	1438名
サンプルの国籍(対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	学校における3つの自殺予防プログラムの効果を検討する。
結果・内容・提言	自殺への問題意識の増加を目的として、①自殺行動の臨床的特徴、専門家への援助希求の重要性、②ストレス軽減のためのサポートネットワークの価値、③問題解決能力、のそれぞれをポイントとする3種類のプログラムを実施。①は専門家が、②③は6~10時間の訓練を受けた教師が通常の授業内で実施した。自殺への態度や知識を効果指標とした。8、10年生758名を介入群とし、学校レベルにおける年齢、民族、社会経済的地位をマッチングさせた統制群680名を用意した。効果指標は、プログラム実施前と1か月後に測定した。大多数の生徒が、プログラム実施前に知識や理解を持っていた。そうでない少数の生徒も、プログラムの実施により関心を持つようになった。
キーワード	Suicide prevention, adolescence

管理番号	E-64
タイトル(英語)	Preventing suicide in young people . . . above all, it's a matter of life.
タイトル(日本語)	
研究者	Thibault C
所属機関	Director general of the JEVIF foundation for the prevention of suicide in young people
言語	英語
雑誌情報	Canada's Mental Health, 40(3), 2-7
論文種類	
研究デザイン	Report
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	カナダ
対象領域	地域
目的	JEVI Foundationの活動を紹介する。
結果・内容・提言	青年の自殺予防活動を目的とし、青年向けの対策としては、気づき、ピアカウンセリング、グループ活動、専門機関への紹介を行っている。教育者に対しては、気づき、訓練、サポートを実施している。
キーワード	

E-63	
The impact of curriculum-based suicide prevention programs for teenagers: an 18-month follow-up.	
Vieland V, Whittle B, Carland A, Hicks R, Shaffer D	
Department of child psychiatry, Columbia university college of physicians and surgeons	
英語	
Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry, 30(5), 811-5	
Intervention study	
381名	
アメリカ	
学校(高校)	
学校におけるカリキュラム制の自殺予防プログラムの長期効果を検討する。	
	自殺への問題意識の増加を目的として、①自殺行動の臨床的特徴、専門家への援助希求の重要性、②ストレス軽減のためのサポートネットワークの価値、③問題解決能力、のそれぞれをポイントとする3種類のプログラムを実施。①は専門家、②③は6~10時間の訓練を受けた教師が通常の授業内で実施した。対象は、介入群114名、統制群207名である。プログラム実施18か月後に、援助希求行動と自殺傾向に関する調査を実施。比較したが、プログラムが有効であることは示されなかった。
Suicide prevention, adolescence	

管理番号	E-66
タイトル(英語)	Suicide among adolescents.
タイトル(日本語)	
研究者	Ryland D H, Kruesi M J
所属機関	National institute of health, child psychiatry branch
言語	英語
巻誌情報	International Review of Psychiatry, 4(2), 185-195(E-67; Erratum, 5(1), 119)
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	地域/学校
目的	青年期の自殺についてレビューする。
結果・内容・提言	リスクファクターとしては、精神障害、家庭環境、家族の精神疾患、性同一性障害、生物学的要因、身体的疾患がある。自殺率増加の原因には、社会的競争の増加が考えられる。自殺予防対策では学校においてカリキュラムとして実施するものが増加しており、認知行動療法や環境の安定化が用いられている。
キーワード	

管理番号	E-67
タイトル(英語)	Suicide and the military justice system.
タイトル(日本語)	
研究者	Lande R G
所属機関	Walter reed army medical center
言語	英語
巻誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 22(3), 341-9
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	職域
目的	アメリカの軍法における自殺のとらえ方と、判決結果について概観する。
結果・内容・提言	アメリカの軍隊は自殺に敏感である。軍の方針が自殺予防プログラムの形成に直接関連する。アメリカの軍隊では、人道主義的なアプローチが採用されているが、現在の軍法では自殺は逸脱行為としてとらえられている。自殺企図者やその援助をした者は有罪とされる。
キーワード	

管理番号	E-70
タイトル(英語)	Prevention of suicide in older adults in Hong Kong.
タイトル(日本語)	
研究者	Chong A M
所属機関	City Polytechnic of Hong Kong
言語	英語
書籍情報	Bulletin of the Hong Kong Psychological Society, 30-31, 71-83
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	香港
対象領域	地域
目的	老人の自殺予防対策について考える。
結果・内容・提言	香港では老人の自殺率が高く、特にここ5年において70歳以上の者の自殺が増加している。現在の自殺予防サービスはサマリタンによるもので、老人よりも青年に効果的である。老人の自殺予防のためには、リーチアウト方式をとること、訪問による直接的なコミュニケーション、他分野にわたる介入、退職直後の者をボランティアとして活用することが望ましい。
キーワード	

管理番号	E-68
タイトル(英語)	The effectiveness of telephone interventions by suicide prevention centres.
研究者	Mishara B L, Daigle M
所属機関	Psychology department and laboratory for research in human and social ecology, university of Quebec at Montreal
言語	英語
書籍情報	Canada's Mental Health, 40(3), 24-29
論文種類	
研究デザイン	intervention study
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	617件
サンプルの国籍 (対象地域)	カナダ
対象領域	地域
目的	ケベックにある2つの自殺予防センターの電話相談の記録から、自殺予防対策の効果を検討する。
結果・内容・提言	617件の電話相談があり、すべてボランティアが電話を受けた。介入は指示的・非指示的であり、多くの相談者に対して電話が有効であったと思われ、抑うつや自殺率の減少が示された。ほとんどの相談者が最後には自殺をしないと約束をし、フォローアップ調査の結果、その約束を守っていた。
キーワード	

E-73	
The impact of a suicide prevention program for adolescents on suicidal tendencies, hopelessness, ego identity, and coping.	
Orbach I, Bar-Joseph H	
Bar-Ilan university	
英語	
Suicide and Life-Threatening Behavior, 23(2), 120-9	
Intervention study/randomized controlled trial	
分散分析	
393名	
イスラエル	
学校(中学)	
自殺傾向、希望のなさ、自我同一性、コーピング能力に関する実験的自殺予防プログラムを実施し、その効果を検討する。	
6つの学校に通う学生393名を対象とした。実験群(215名)と統制群(178名)にランダムに群分けし、実験群には週1回2時間のミーティングを7週間を行った。プログラムでは、自己破壊的感情を克服するようコーピングを強調し、自殺行動に関連した肉体的経験や生活の困難への困難への直面や探求を段階的に実施。実験群では、自殺傾向、希望のなさ、自我同一性、コーピング能力の改善が見られた。	

E-75	
Adolescent suicide: behaviors, risk factors, and psychiatric nursing interventions.	
タイトル(日本語)	
研究者	Ladely S J, Puskar K R
所属機関	Psychiatric/Mental health nursing, school of nursing, university of Pittsburgh
言語	英語
書誌情報	Issues in mental health nursing, 15(5), 497-504
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	
対象領域	学校
目的	青年の自殺の特性についてレビューする。
結果・内容・提言	多くの自殺既往の青年が精神疾患の治療を受けていない。自殺の気づきと自殺予防プログラム、自殺行動のリスクのある青年の早期発見が必要である。自殺予防プログラムは学校で行うのが望ましい。そして、これらのプログラムに勤務の精神科ナースが協働すると良い。
キーワード	

管理番号	E-79
タイトル(英語)	Preventing jailhouse suicides.
タイトル(日本語)	
研究者	Felthous A R
所属機関	Department of psychiatry and behavioral sciences, the university of Texas medical branch, Galveston
言語	英語
雑誌情報	Bulletin of the American Academy of Psychiatry and the Law, 22(4), 477-88
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	留置所
目的	留置所における自殺予防プログラムについて概観する。
結果・内容・提言	市の精神科相談窓口や留置所は、国家的問題として自殺予防に取り組んでいる。留置所における自殺予防プログラムでは、スクリーニングと同定、心理的支援、観察、環境縮小、明瞭性と一貫性、診断、治療、入院が必要である。これらがどれほど正確に系統化され、実行されるかは留置所それぞれの環境に左右される。
キーワード	

E-76	
Are there unique features of suicide in adults of different ages and developmental stages?	
Lester D O	
Cent for the study of suicide, Blackwood	
英語	
Journal of Death and Dying, 29(4), 337-348	
Review	
地域	
青年の自殺行動と老人の自殺行動の違いについてレビューする。	
若者と比べて、老人の自殺行動では、より致死的な手段がとられ、感情障害と脳器質性疾患がしばしば見られる。また、直近のストレス経験が少ない。即ちつの治療と致死的手段への接近の制限が老人の自殺予防対策においては効果的であろう。一方、自殺予防センターによるカウンセリングや教育プログラムは青年の自殺予防に効果的であろう。	
キーワード	

管理番号	E-80
タイトル(英語)	Prevention of teenage suicidal behaviour in Hong Kong: Development of the Health Intervention Training-Mutual Aid Network (HIT-MAN).
タイトル(日本語)	
研究者	Tse J W L, Bagley C, Hoi-Wah M
所属機関	City Polytechnic of Hong Kong
言語	英語
書誌情報	School Psychology International, 15(2), 99-114
論文種類	
研究デザイン	Report
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	香港
対象領域	学校
目的	香港では、教師、ソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、両親がしばしば自殺未遂や自殺企図に直面している。10代の自殺行動への介入が緊急課題であるものの、学校における自殺予防プログラムは香港では確立されていない。著者は、自殺念慮を表出したハイリスク学生に対する訓練-相互支援ネットワーク(HIT-MAN)を立ち上げ、その紹介をする。
結果・内容・提言	HIT-MANは、学生同士の相互支援を通して、メンタルヘルスの促進を主要な目的として、学校内でソーシャルネットワークを確立するものである。プログラムの対象は学生である。仲間グループを公式に発展させ、生命に対する肯定的な態度の発達、友好的な支援の提供の機会を学生に与えるものである。HIT-MANは、早期発見・早期介入のアプローチである。
キーワード	

管理番号	E-83
タイトル(英語)	Parental influence, pessimism and adolescent suicidality
タイトル(日本語)	
研究者	Allison S, Pearce C, Martin G
所属機関	Flinders university
言語	英語
書誌情報	Archives of Suicide Research, 1(4), 229-242
論文種類	
研究デザイン	cross-sectional study
統計手段	回帰分析、検定
対象観察期間	
対象サンプル数	307名
サンプルの国籍(対象地域)	オーストラリア
対象領域	地域
目的	青年の自殺行動の早期発見のために、子供から見た両親および祖世親と自殺行動の現れについて検討する。
結果・内容・提言	オーストラリアの高校生を対象に調査を実施。307名から有効回答が得られた。自殺行動レベルの高いものは、そうでない者と比較して、両親が批判的である、注目されていない、過保護であると答えた。両親と希望のなさはともに自殺行動に大きく影響している因子であった。両親の質は青年の自殺行動に大きく関連しており、IRQを用いると自殺行動の早期発見に役立つと思われる。
キーワード	Adolescence, hopelessness, IRQ, PBI, suicidality

管理番号	E-85
タイトル(英語)	Reducing suicide potential among high-risk youth: Tests of a school-based prevention program.
タイトル(日本語)	
研究者	Eggert L, Thompson E A, Hering J R
所属機関	Associate professor, Psychosocial nursing department, university of Washington.
言語	英語
雑誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 25(2), 276-296 (E-96: Erratum, 28(1), 96)
論文種類	Feature
研究デザイン	Intervention study
統計手段	分散分析
対象観察期間	1990-1993
対象サンプル数	105名 (+統制群202名)
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	学校(高校)
目的	学校における自殺予防プログラムがハイリスク者の自殺の可能性を低減する効果を検討する。
結果・内容・提言	5つの都市部にある高校の9年生から12年生で、自殺リスクの高い105名を対象とした。アセスメントのみ、アセスメント+6ヶ月の自己成長セッション、アセスメント+12ヶ月の自己成長セッションの3群に群分けした。さらに、統制群としてハイリスクでない学生をランダムに202名抽出した。自己成長セッションは自殺リスクの高い行動や抑うつ、希望のなさ、ストレス、怒りを低減し、自己コントロールや自尊心、サポート源を増加させた。
キーワード	

E-84	
Preventive health programs among Sami adolescents in a Sami community.	
Kvernmo S	
Regional center for child and adolescent psychiatry, Karasjok	
英語	
Arctic medical research, Suppl 1, 107-12	
Review	
ノルウェー	
地域	
小都市における自殺予防への取り組みについて概観する。	
	サーミ人の青年用の特別の自殺予防プログラムを設置。ソーシャルワーカー、精神科医、学校、協会などが協力して危機介入サービスを提供している。地域プライマリケアにおける健康サービスは特別な問題を持つ子供や青年を治療するために再組織化された。学校保健師は、学校内において子供や教師に対する治療やカウンセリング、教育に関する中心的役割を担っている。週1回、医師と看護師が青年向けの健康サービスを実施している。すべての相談は無料で、予約作成などの必要はない。

管理番号	E-90
タイトル(英語)	Suicide prevention programs: issues of design, implementation, feasibility, and developmental appropriateness.
タイトル(日本語)	
研究者	Silverman M M, Felner R D
所属機関	University of Chicago
言語	英語
雑誌情報	Suicide and Life-Threatening Behavior, 25(1), 92-104
論文種類	Feature
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	地域
目的	自殺予防対策の成効に重要な構成要素について議論する。
結果・内容・提言	問題解決の方法は一つではない。自殺とハイリスク行動は深く関連している。地域社会ごとに総合的な支援体制やプログラムが必要である。介入のタイミングが重要であり、早く始めたほうがよい。継続して努力すべきであり、単発のプログラムではなく、継続すること、フォローアップ、ブースターセッションが必要である。
キーワード	

E-89	
Suicide prevention in Canada. A national perspective highlighting progress and problems.	
Tanney B	
Professor of psychiatry, faculty of medicine, university of calgary	
英語	
Suicide and Life-Threatening Behavior, 25(1), 105-12	
Feature	
Review	
地域	
WHOが地域における自殺予防のための行動を発展させた。特にハイリスク者に対する地域における自殺予防のアプローチについて概観する。	
明確な機能分類、結果、優先事項を示した簡潔なモデルが必要である。関心やアプローチが多様な環境下では、場所により変容されやすいものがある。柔軟に対応すべきである。自殺予防活動を評価し、模倣する機会を設けるためにも、実例を示すことが重要である。	

管理番号	E-92
タイトル(英語)	The Zuni life skills development curriculum: Description and evaluation of a suicide prevention program.
タイトル(日本語)	
研究者	LaFromboise T. Howard-Pitney B
所属機関	Stanford university
言語	英語
書誌情報	Journal of Counseling Psychology. 42(4). 479-486
論文種類	
研究デザイン	Intervention study
統計手段	分散分析
対象観察期間	
対象サンプル数	128名
サンプルの国籍 (対象地域)	アメリカ
対象領域	地域
目的	ズニ族用の自殺予防プログラムの効果を検討する。
結果・内容・提言	ズニ族と協同して、文化に則した自殺予防プログラムを計画した。プログラムは部族内の学校に紹介され、自己評価、行動観察、ピア評価の多次元的方法を用いて評価された。統制群と比較して、介入群では自殺の可能性や希望のなさが低下した。また、問題解決能力や自殺介入スキルが上昇した。
キーワード	

管理番号	E-91
タイトル(英語)	The aftermath of suicide: Postvention in a school setting.
タイトル(日本語)	
研究者	Celotta B
所属機関	Johns Hopkins university, counseling department
言語	英語
書誌情報	Journal of Mental Health Counseling. 17(4). 397-412
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍 (対象地域)	
対象領域	学校
目的	学校における事後介入について記述する。
結果・内容・提言	包括的自殺予防プログラムは3つの構成要素からなる。予防的要素は生徒の自殺への抵抗性の確立に役立つ。危機介入は自殺リスクのある生徒の助けとなる。事後介入は自殺後の学校内における適応の促進を導く。事後介入には、学校と地域の協働、書面的手続き、熟練の事後介入および危機介入チーム、教員や生徒、両親、家族、親友に対する情報や支援の提供が含まれる。
キーワード	

管理番号	E-94
タイトル(英語)	Arguments for and against teaching suicide prevention in schools.
タイトル(日本語)	
研究者	Hazell P, King R
所属機関	Faculty of medicine and health sciences, university of Newcastle
言語	英語
雑誌情報	Australian and New Zealand journal of psychiatry, 30(5), 633-42
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	
対象領域	学校
目的	学校におけるカリキュラムに基づいた自殺予防プログラムについて議論する。
結果・内容・提言	学校におけるプログラムは、教育を阻害する要因の解決、健康教育、家庭や地域社会における日常的ケアの返礼の一環として、学校責任の示に行われるべきである。学校における自殺予防プログラムの効果測定として、大人に助けを求める傾向の程度を用いるべきである。
キーワード	

管理番号	E-93
タイトル(英語)	A systematic overview of adolescent suicide prevention programs.
タイトル(日本語)	
研究者	Ploeg J, Ciliska D, Dobbins M, Hayward S, Thomas H, Underwood J
所属機関	McMaster university school of nursing, Hamilton
言語	英語
雑誌情報	Canadian journal of public health, Revue canadienne de santé publique, 87(5), 319-24
論文種類	
研究デザイン	Review
統計手段	
対象観察期間	
対象サンプル数	
サンプルの国籍(対象地域)	
対象領域	学校
目的	カリキュラムに基づいた自殺予防プログラムの有効性に関してレビューを行う。
結果・内容・提言	包括的研究は11件該当し、カリキュラムに基づいた学校における自殺予防プログラムの有効性を支持する根拠は不十分であった。プログラムの有効性と若くは学生に対する有害性を示されていると思われる。多くの研究では、プログラムの結果として自殺に関する知識の改善が見られているものの、自殺に対する態度に対して有効性と有害性が示されている。青年の自殺リスク行動の決定因子への有効性の検討を行うべきである。
キーワード	